

【計画の概要】

○内水被害軽減の基本方針

浸水被害の危険性が高い地域を集中的に整備
緊急整備により、迅速に浸水被害を軽減

○対象期間

令和6年度～令和14年度

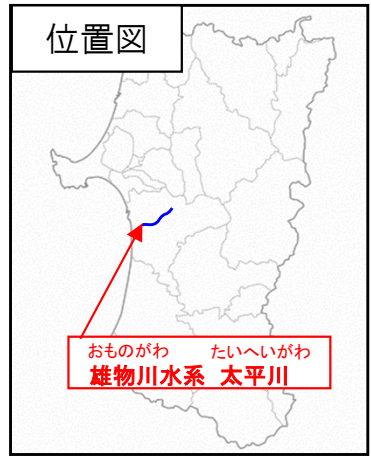
○全体計画額

約 428億円※(県:約360億、市:約68億)

○特定都市河川に向けた見込み

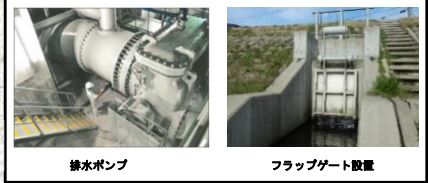
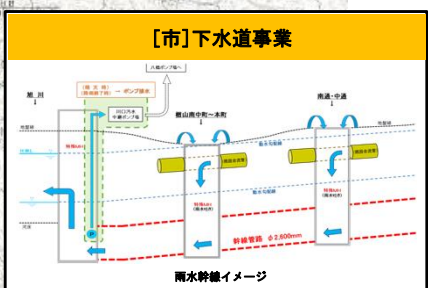
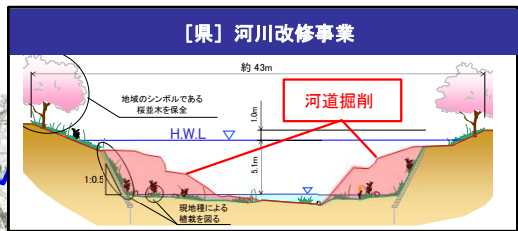
令和6年3月ロードマップ公表。ロードマップに基づき、特定都市河川指定に向けた検討を実施予定

※全体計画額については、今後変更となる可能性があります



【取組の概要】

- 凡例
- 河川対策
 - 下水道対策
 - 流域対策
 - 浸水範囲 (R5.7月大雨)
 - 内水被害軽減対策計画範囲



【主な取り組み内容】

- 河川対策 : 太平洋の河川改修(県:約360億)
- 下水道対策: 雨水幹線、排水ポンプ、フラップゲートの整備(市:約66億)
- ソフト対策 : 内水浸水想定区域図作成(市:約2億)
- 流域対策 : ①特定都市河川の指定
②田んぼダムの効果検証
③公共施設等を活用した雨水貯留機能を有する施設の検討
④公共施設等の浸水対策の推進 など

【推進体制】

雄物川圏域流域治水協議会下流圏域分科会

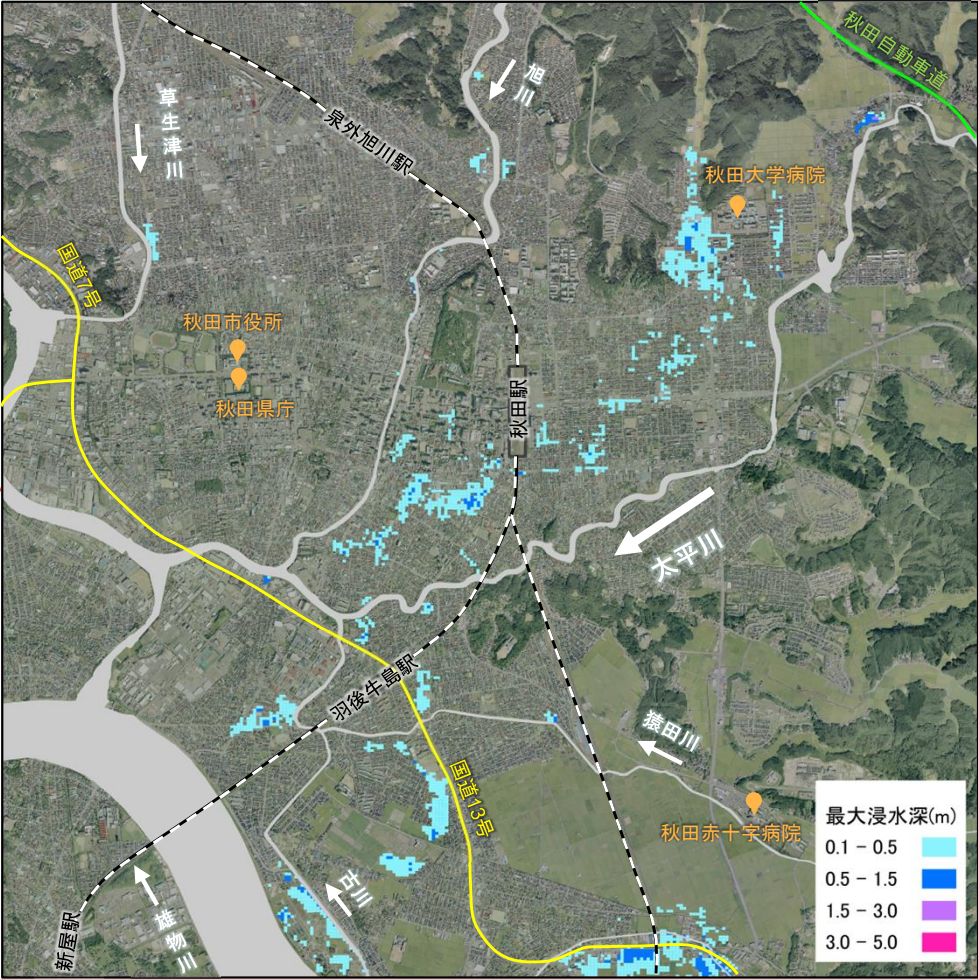
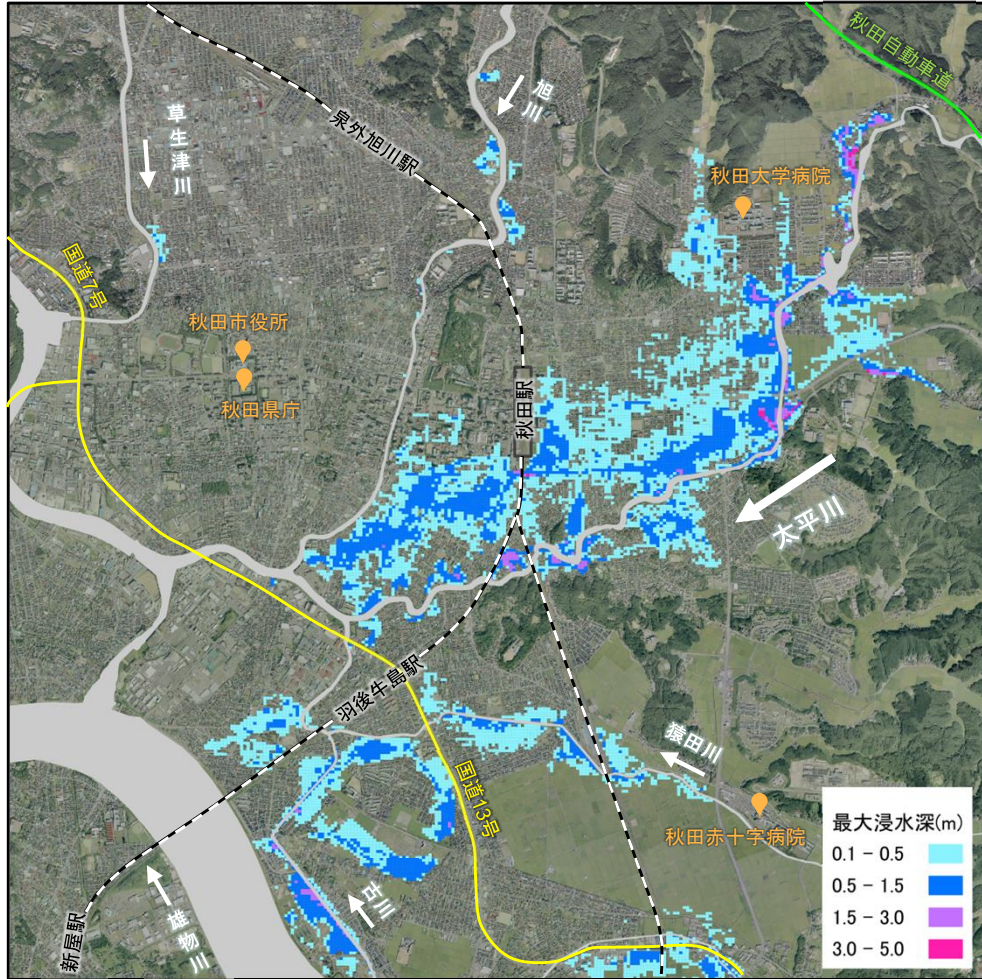
【取り組みの効果】

令和5年7月と同規模の降雨に対して、概ね10年間で浸水面積の約8割を解消

取り組みの効果（令和5年7月同規模降雨）

■ 浸水現象の再現結果（浸水範囲）

■ 対策実施後の計算結果（浸水範囲）



- この図は、令和5年7月に発生した大雨の浸水現象をシミュレーションしたものです。時間によって変化する水深のうち、それぞれの範囲内で最大の浸水深を表示しています。（浸水深10cm未満の範囲は表示していません）
- 旭川、太平川、猿田川、古川、草生津川といった河川からの氾濫（外水氾濫）と、水路や下水道からの氾濫（内水氾濫）の両方を考慮しています。
- シミュレーションには地盤高として、約25m×25mのメッシュデータを用いています。
- シミュレーションの実施にあたっては、小規模な支川の氾濫、氾濫原の微地形、下水道のうち詳細な枝線などを考慮していませんので、この浸水図に表現された範囲以外にも浸水が発生している可能性があります。
- 水害ハザードマップは想定最大規模の降雨を対象としているため、警戒避難については従前どおり水害ハザードマップを参照してください。
- 今後、対策の内容が変更になる場合があります。